

天の川で「見えない」 ブラックホールを探す

ブラックホールとは、その強大な重力によって光すら脱出できなくなった天体のことです。私たちが住むこの「天の川銀河」には、少なくとも1億個のブラックホールがあるとされています。しかしながら、観測で確認されているものは60個ほどに過ぎません。残りはどうして見えないのか。どうすれば見えるようになるのか。考え始めたら、気になって仕方がありません。何かこう、ムズムズします。さあ、そんな時あなたはどうしますか？
(岡先生より)



岡 朋治 (おか ともはる)

東京大学大学院 理学系研究科天文学科 修了、理学博士。理化学研究所特別研究員、東京大学大学院助教を経て、2008年から慶應義塾大学准教授。2015年より同大学教授。国内外の電波望遠鏡やサブミリ波望遠鏡を用いて、銀河中心核やブラックホールの謎に迫る。銀河内を高速で移動する「野良ブラックホール」や、超大質量ブラックホールへ進化する過程とされる中規模ブラックホールの発見など、ブラックホール研究の現場を常にリードし続けている。

協育プログラム「理系ノス、メ2019」vol.1

慶應義塾大学 工学部物理学科 **岡 朋治** 理学博士 教授

6月12日(水)15:15～ B棟大会議室